



今日から始める 自然観察



ふきはる としみつ
吹春 俊光
千葉県立中央博物館
学芸員

によきっ! キノコは どこに生えている?

秋はキノコの季節。公園や身近なところでもキノコ観察はできます。今回はキノコが生える環境に注目。キノコと向き合い仲良しになれば、やがて森のしくみを深く知ることもなりますよ。

弱った木

樹木が部分的に弱ってくると、そこを分解するキノコが入ってくる。すべては樹木が土に還る準備。



腐生菌

例 ヤナギマツタケ
公園や街路樹などに生える。美味しい食用菌で、傘の裏側のヒダが胞子の色のココア色に成熟するのが特徴。



倒木

植物が光合成でつくった有機物は、木の幹などに蓄積される。木が倒れた後の大量の有機物の塊は、キノコが無機化し土に還す。



腐生菌

例 コキララタケ
広葉樹の倒木などに生える。オレンジ色の菌糸のマットが特徴。このキノコは、木材を分解する菌であると同時に、ラン科植物には養分を与えている。

森に欠かせないキノコ

キノコはカビと同じく菌類の仲間です。そのうち胞子をつくる器官が目に見えるサイズのものを総称してキノコと呼びます。キノコの役割を考えながら、キノコがどんなところに生えているのか観察してみよう!

腐生菌と呼ばれるキノコは植物を土

に還すのが役割です。切り株や倒木などを見つけたら、その周囲を回って探してみよう。日がよく当たる場所の木材には高温にさらされても大丈夫なキノコ(ヒイロタケなど)が見られます。森の中や木陰になっている場所では、湿ったところが好きなキノコ(ナラタケ類やヒトヨタケ類など)が生えています。森の中の落ち葉を分解するのもキノコの役割。キノコが出ていなくても落ち葉をめぐってみましょう。菌糸のマットや菌糸が束になった菌糸束が見られるかもしれません。菌糸のマットでは下へいくほど分解が進み、落ち葉の形が次第に失われ、土に還っていくのを見ることができます。

もうひとつのキノコの役割は、樹木と共生して森を育てること。この役割をするキノコを**菌根菌**と呼びます。主

寄生菌

昆虫やキノコ

昆虫やクモ類から発生するキノコ（冬虫夏草）や、キノコに寄生するキノコ（タマノリイグチなど）もある。



例 ヤンマタケ

生きたトンボに感染し、枝の先まで誘導したかのような姿で、体節からキノコが発生する。

腐生菌

落ち葉

降り積もる落ち葉を菌糸で綴（と）じ、分解して土に還す。キノコの下に落ち葉をめぐってみると分厚い菌糸のマットが見られることも。



例 オオホウライタケ

落ち葉が厚く積もった場所に発生。出合ったらキノコの下に広がる菌糸のマットは必見。

菌根菌

腐生菌

地面

地面から生えるキノコには樹木と根を通じて共生している菌根菌や、埋もれた木片などを栄養としている腐生菌などさまざま。ときに動物のふん尿や死体の分解跡から生える珍菌も。



例 タマゴタケ

主にブナ科の林に発生する菌根菌。赤い派手なキノコだが有名な食用菌。タマゴタケの仲間はヒダが黄色。この特徴で毒のあるよく似たほかのテングタケ類と区別する。



例 ハタケシメジ

埋もれた木片から発生するため、道路脇や人家近くに多い。埋もれた木片がどんなものか観察してみよう。美味しい食用菌。



QUIZ

このキノコはどこから？

このキノコ（ナガエノスギタケ）は、必ずある秘密の場所から発生します。さてこのキノコの下には何があるでしょう？

- ① シロアリの巣
- ② スズメバチの巣跡
- ③ モグラ類の便所跡

▶ 答えは35ページ

※毒キノコとの見分けは難しいので、食べるときは専門家に見てもらいましょう。

にブナ科やマツ科、カバノキ科の樹木は根の部分に外生菌根というものをキノコとつくり、互いに栄養をやりとりしています。樹木はキノコに光合成でつくった有機物の何割かを提供し、キノコは窒素やリンなど無機塩類を樹木に供給します。これらの樹木の周りを探るのが菌根菌を見つけるコツ。家の近所のマツやコナラの植え込みにも菌根菌は見られるので探してみてください。ほかに昆虫やほかのキノコに生える寄生菌と呼ぶキノコもあります。長い年月を経た古い森ほど、多様なキノコが見られます。森はキノコなしでは生きていきません。太古から続く森とキノコの関係に思いをはせてみませんか。